



なぜ、防衛力の抜本的強化が必要？

15

のポイント





ポイント1 防衛省・自衛隊の組織・役割について

防衛省・自衛隊は何をしているの？



**国民の生命・財産と国の領土・領海・領空を
守り抜くほか、**

国内外の大規模災害派遣や国際平和協力活動を含む
様々な活動を実施しており、

**日本の「最後の砦」として、
重要な役割を果たしています。**

様々な活動を実施する防衛省・自衛隊

外国の航空機への対応



日本の周辺空域で活動する
ロシア軍 Tu-95 爆撃機

外国のミサイルへの対応



弾道ミサイルへ対応できる
海自イージス艦「まや」

自然災害への対応



東日本大震災における活動



能登半島地震・奥能登豪雨における活動

外国の軍艦への対応



日本の周辺海域で活動する
中国軍空母「遼寧」

外国で緊急事態が起きた場合の
邦人(日本人)などの保護措置・輸送



在イスラエル国邦人等の輸送における
羽田空港到着後の降機の様子

災害に見舞われた
外国への救援



トルコ共和国において活動する医療
チームに必要な機材等を輸送



防衛省・自衛隊は、日本の防衛という任務を果たすため、
実力組織である陸・海・空自衛隊のほか、

防衛大臣を補佐する本省内部部局、統合・陸上・海上・航空
幕僚監部・防衛装備庁など、様々な組織で構成されています。



ポイント2

日本周辺の安全保障環境について

日本周辺の安全保障環境は？



日本の周辺国などが**軍事力を増強**しつつ**軍事活動を活発化**させており、**日本はその最前線**に位置しています。

日本周辺国等の軍事動向

ロシア 国際秩序の根幹を揺るがし、欧州方面においては、最も重大かつ直接の脅威。インド太平洋地域においては、中国との戦略的な連携と相まって安全保障上の強い懸念

北朝鮮 従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

中国 日本と国際社会の深刻な懸念事項。これまでにない最大の戦略的な挑戦

南シナ海をめぐる問題

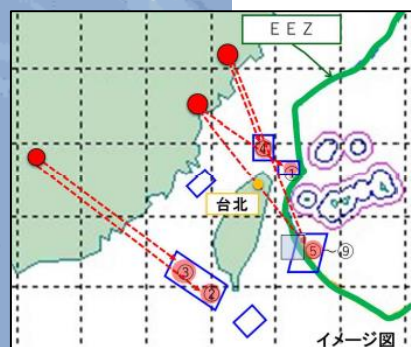
台湾

力による一方的な現状変更及びその既成事実化

尖閣諸島周辺において領海侵入を繰り返す
中国海警局の船舶

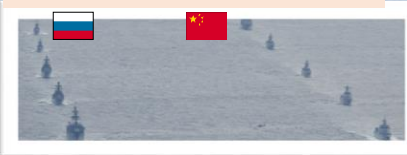


尖閣諸島をめぐる問題
力による一方的な現状変更の試みを執拗に継続

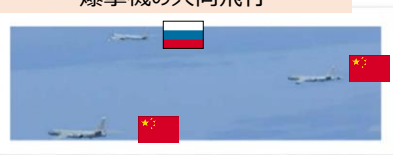


中国が台湾周辺に向けて発射した9発の弾道ミサイルのうち5発が我が国のEEZ内に着弾(2022年8月4日)

ロシア・中国による艦艇の共同航行



ロシア・中国によるわが国周辺での爆撃機の共同飛行



日本の今後の安全保障・防衛政策の在り方が地域と国際社会の平和と安定に直結する状況です





ポイント3

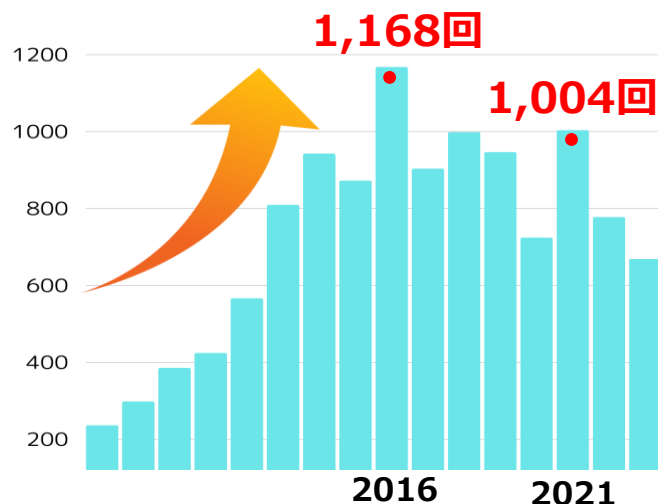
緊急発進（スクランブル）について

スクランブルってどれくらいやっているの？



2013年度以降、緊急発進（スクランブル）回数は
概ね700回を超える高い水準で推移しており、
2016年度と2021年度には1,000回を超える
緊急発進を行いました。

■ 緊急発進回数の推移（年度）



■ 国・地域別緊急発進回数の推移（年度） ※国、地域は推定を含む

年度	ロシア	中国	台湾	北朝鮮	その他	合計
2019	268	675	0	0	4	947
2020	258	458	0	0	9	725
2021	266	722	3	0	13	1,004
2022	150	575	0	0	53	778
2023	174	479	1	2	13	669

■ 特異飛行公表事例（2023年12月14日）

中国の爆撃機が東シナ海から日本海に進出後、ロシアの爆撃機と合流し、東シナ海にかけての長距離にわたる共同飛行を確認。
その後、ロシアの爆撃機は対馬海峡を通過し、大陸方面へ飛行したことを確認。



また、**2023年度**における緊急発進回数は**669回**であり、国・地域別緊急発進回数（推定含む）は、
約72%が中国機、約26%がロシア機でした。



ポイント4

日本周辺の安全保障環境（中国）

安全保障環境が厳しいというけど…

中国の動きはどうなっているの？

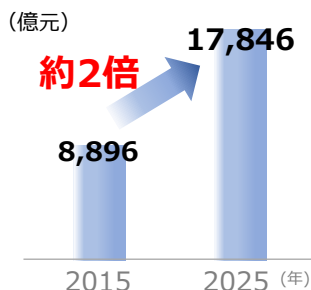


中国は、国防費の高い水準での増加を背景に、海上・航空戦力や核・ミサイル戦力を中心に、軍事力を広範かつ急速に強化しています。

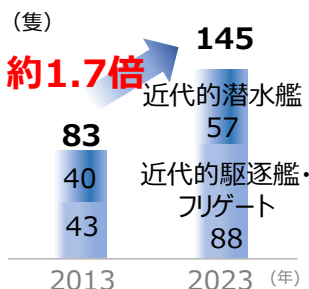


10年間の主な変化（中国）

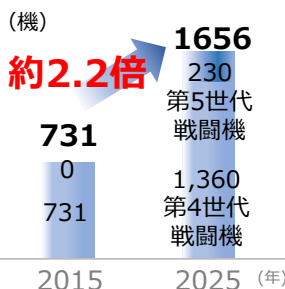
公表国防費



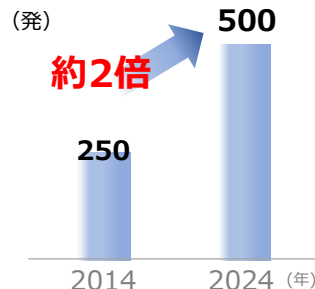
近代的な海上戦力



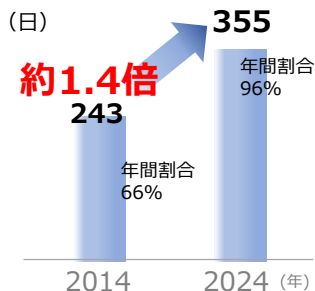
近代的な航空戦力



核弾頭



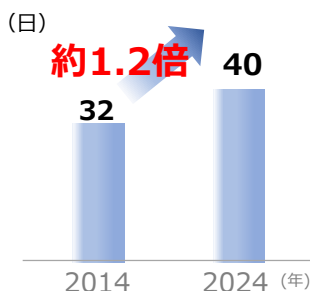
中国海警船などによる 接続水域入域日数



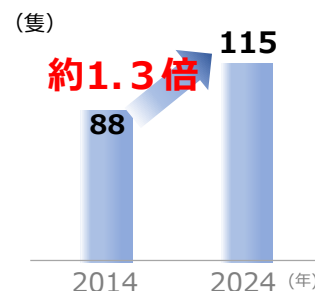
中国海警船などによる 接続水域入域延べ確認隻数



中国海警船などによる 領域侵入日数



中国海警船などによる 領域侵入延べ確認隻数



中国は、尖閣諸島周辺において、力による一方的な現状変更の試みを長年にわたり執拗に継続しています。

また、2022年8月には、中国が発射した弾道ミサイル9発のうち、5発が日本のEEZ内に着弾しました。



ポイント5

北朝鮮の弾道ミサイル開発について

北朝鮮の弾道ミサイル開発は どのくらい進んでいるの？



北朝鮮は、以下のように **ミサイル関連技術** や、
実戦的なミサイル運用能力を向上 させています。

ミサイル関連技術の向上

発射の秘匿性・即時性向上

車両、鉄道、潜水艦等、様々な場所から発射
⇒ 通常の発射台からの発射よりも、
**いつ、どこから発射するかを事前に
把握することや、迎撃などが困難**

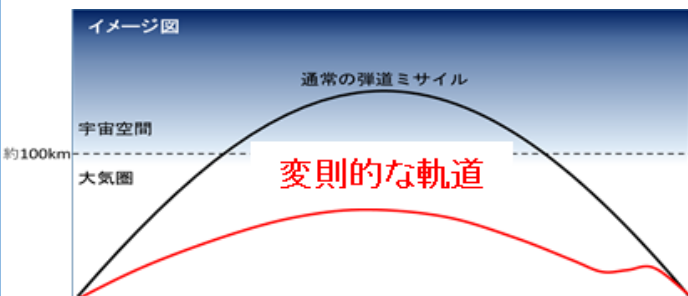


発射台付き車両 (TEL)

潜水艦

ミサイル防衛網の突破能力の向上

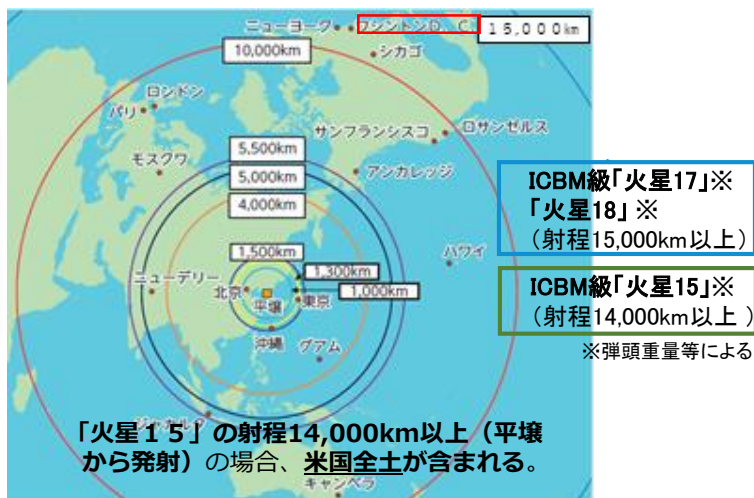
- 低い高度を変則的な軌道で飛ぶ
弾道ミサイルの開発
 - 「極超音速滑空飛行弾頭」の開発
- ⇒ 通常の弾道ミサイルよりも **探知や迎撃が困難**



長射程ミサイルの開発

ICBM級「火星15」「火星17」「火星18」は、弾頭重量等によっては射程14,000km～15,000km以上
(米国全土を含む長さ) に及ぶ

⇒ 米国に対する抑止力を確保したと一方的に認識し
軍事的挑発の増加・重大化につながる可能性も



実践的なミサイル運用能力の向上

- 複数発の同時発射
- 発射間隔が1分未満の発射
- 異なる場所から発射し、特定の目標に命中させることを追求





ポイント6

日本周辺の安全保障環境（ロシア）

安全保障環境が厳しいというけど…

ロシアの動きはどうなっているの？



ロシアは、核戦力を含む各種装備の近代化を推進し、

北方領土及び千島列島に新型装備を配備 するなど
軍備を強化 しています。

また、**中国との共同活動を活発化** させています。



10年間の主な変化（ロシア）

この10年間で**北方領土を含む極東に配備された主な新型装備等**



【ロシア国防省HP】

地対艦ミサイル「バスチオン」
射程300km
2016年択捉島に配備



【ロシア国防省HP】

地対艦ミサイル「バル」
射程130km
2016年国後島に配備



【ロシア国防省HP】

Su-35S戦闘機
2018年以降択捉島に展開



ロシア・中国による**艦艇の共同航行**
(21年10月、22年9月、23年7～8月、
24年7・9～10月)



対象機 (H-6)

航空自衛隊撮影



対象機 (Tu-95)

航空自衛隊撮影

ロシア・中国によるわが国周辺での**爆撃機の共同飛行**
(19年7月、20年12月、21年11月、
22年5・11月、23年6・12月、24年7・11月)



ポイント7

国の防衛の必要性



ロシア軍のミサイル攻撃を受けたウクライナの集合住宅
(ウクライナ緊急事態庁ドニプロペトロウスク州本部)

安全保障環境が厳しいというけど…

戦争はどうすれば防げるの？



最も重要なのは、

他国との外交によって戦争を未然に防ぐことです。



しかし、外交努力を尽くしても戦争に至ってしまう場合があります。
このため、国を確実に守り抜く力を持って、他の国に

「日本を攻めても目標を達成できない」

と思わせることが必要です。

国民の命や平和な暮らしを守るために、

**相手の能力と新しい戦い方に着目した
防衛力の抜本的強化**を行う必要があります。

このため、**2023～2027年度の5年間で
43.5兆円の契約額が必要**となります。



ポイント8

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方
～自衛隊が抱える課題～



装備品があるのに...

部品不足



部品不足により...

装備品が 動けないまま...

例えば...
一般の飛行機や自動車のように
装備品にもメンテナンスが必要
その部品が足りないことで
メンテナンスができず動けないままに...

古い建物が多く

耐震性能がある 自衛隊施設は60%



国を守る自衛隊の施設が...

防護や耐震の 性能が弱い...

例えば...
災害に対処する
自衛隊の施設が
地震で崩れるおそれも...

過去10年で応募者が

4割減少



少子化により...

人材確保が 難しい...

例えば...
国防を担う人材を
確保することが
困難となるおそれ...

このほか弾薬については、必要数量が不足している状況を
解消することが必要



厳しい現状...



ポイント9

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方
～国外の状況～



ウクライナでは
「新しい戦い方」が顕在化

弾道・巡航ミサイルによる 大規模なミサイル攻撃

遠く離れた場所からも、たくさんの
ミサイルによる攻撃を受ける可能性も...



宇宙やサイバー領域 無人機の活用

例えば、無人機を活用した攻撃や、
インフラへのサーバー攻撃を受ける可能性も...



情報戦

SNSなどで偽情報を流し混乱を招く情報戦が...
偽情報に対応するための情報発信なども重要に



中国 年々、軍事力の強化を進めている現状

*人数、予算、数は2023年・年度の場合
**日本円の場合

陸上兵力人数*

約97万人



日本の陸上自衛隊は
約14万人

国防に関する予算*

約31兆円**



日本は6.6兆円



戦闘機の数*

約1,500機



日本は324機



北朝鮮

近年、実戦的な訓練発射を
含めミサイル発射事案が
急増している。



ロシア

ウクライナ侵略を行う一方、
極東地域でも活発な活動を継続。
中国と共同活動も実施。



日本は軍事活動を活発化する国と地域の最前線に

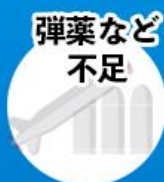


ポイント10

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方
～防衛力の抜本的強化～



厳しい自衛隊の状況



この状況で、厳しく複雑な
安全保障環境に対処できるのでしょうか？

本当に国民の命と平和な暮らしを
守っていけるのでしょうか...？

5年以内に

そこで...防衛力の抜本的強化

国民の命や平和な暮らしを守るために、
2つの視点で防衛力を抜本的に強化

- ・本来やるべき仕事がちゃんとできるように
- ・時代の変化にあわせたパワーアップができるように

そのために必要な防衛費を確保する必要があります。

* これまでの防衛費は国内向け支出の割合が約8～9割を占めており、
防衛力の抜本的強化は日本の経済成長にもつながります。



ポイント11

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方
～持続性や強靱性～



NOT ENOUGH



防護性能がある施設20%
耐震性能がある施設60%

ENOUGH



防護性能・耐震性能
がある施設100%に！

※概ね10年後

NOT ENOUGH



部品不足で
動いていない装備品が...

ENOUGH



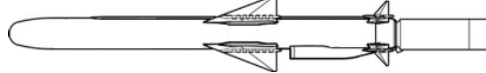
部品不足で動けない
装備品をゼロに！



中距離多目的誘導弾



AIM-120（イメージ）



17式艦対艦誘導弾（イメージ）

その他、必要な各種弾薬について、
所要の数量を早期に整備

15兆円

必要な防衛費のうち34%で

有事において自衛隊が粘り強く活動できるようにします



ポイント12

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方 ～防衛力の強化～



攻撃されない安全な距離から
相手部隊に対処する能力を強化

長射程のミサイルの開発費用など

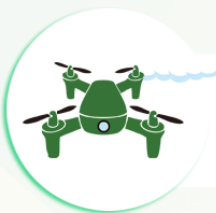
5兆円



ミサイルなどの多様化・複雑化・高度化する
空からの脅威に対応する能力を強化

レーダーやミサイル防衛用ミサイルを買うための費用など

3兆円



無人装備による
情報収集や戦闘支援の能力を強化

偵察用の無人機を買うための費用など

1兆円



全ての能力を融合させて戦うために必要な
宇宙・サイバー・陸海空防衛力の能力を強化

衛星などに関する装備品を買うための費用や、サイバー要員の育成費用など

8兆円



迅速かつ的確に意思決定を行うため
指揮統制や情報関連の機能を強化

AI技術を活用した目標識別機能や、電波情報収集機を買うための費用など

1兆円



必要な部隊を迅速に機動・展開するため、
海上・航空輸送力を強化
これらの能力を活用し**国民保護を実施**

2兆円

時代の変化にあわせたパワーアップができるように



ポイント13

防衛費（5年間で43.5兆円）の使い方 ～防衛生産・技術基盤の強化、 人的基盤強化・基地対策～



防衛生産・技術基盤の強化 1.4兆円

防衛産業は利益が出にくく、企業は日本の防衛に関わるが故にサイバー攻撃を受けています。

このまま放っておいて、企業が撤退してしまうと日本の防衛力そのものに大きな打撃も...

さらに、将来の戦い方を
見すえた装備品の研究開発も必要不可欠です。

だからやります！

- 防衛省が認定した企業への
財政上の措置 など
- 優れた装備品を創るための
研究開発に集中投資



人的基盤強化など・基地対策 6.6兆円

その他、防衛力を強化するための施策を行っていきます。

例えば、人的基盤の強化についてご紹介します。

- 人材の育成
- 女性自衛官の活躍支援
- 採用強化
- 予備自衛官の活用
- 生活・勤務環境の改善
- 衛生機能の変革など



（まとめ）

**必要な防衛費を確保して、
国民の命や暮らしを守り抜きます**



防衛力を抜本的に強化すると 日本は軍事大国になってしまうの？



日本は、以下の考え方で、国の防衛に取り組んでいます。

◎ 専守防衛

- ・相手から武力攻撃を受けたとき初めて防衛力を行使し、
- ・その態様も自衛のための、必要最小限にとどめ、
- ・また、保持する防衛力も自衛のための最小限度のものに限る
など、憲法にのっとった受動的な防衛戦略の姿勢を維持する

◎ 軍事大国とならないこと

ほかの国を脅かすような強大な軍事力を持たない

◎ 非核三原則

「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」という原則を堅く守る

◎ 文民統制の確保

自衛隊が国民の意思によって整備・運用されることを確保するため、
国会、内閣、防衛省の各レベルで、自衛隊を統制する仕組みを採用



こうした考え方を堅持しつつ、
相手の能力と新しい戦い方に着目して防衛力を抜本的に強化します。
これによって、日本を断固として守り抜くという意味と、
十分な能力があることを認識させ、
相手に日本を 侵略する意思を持たせない ことに
つながっていきます。



ポイント15

防衛予算全体に占める装備品の購入費の割合

防衛費って結局

戦車や戦闘機をたくさん買ってるの？



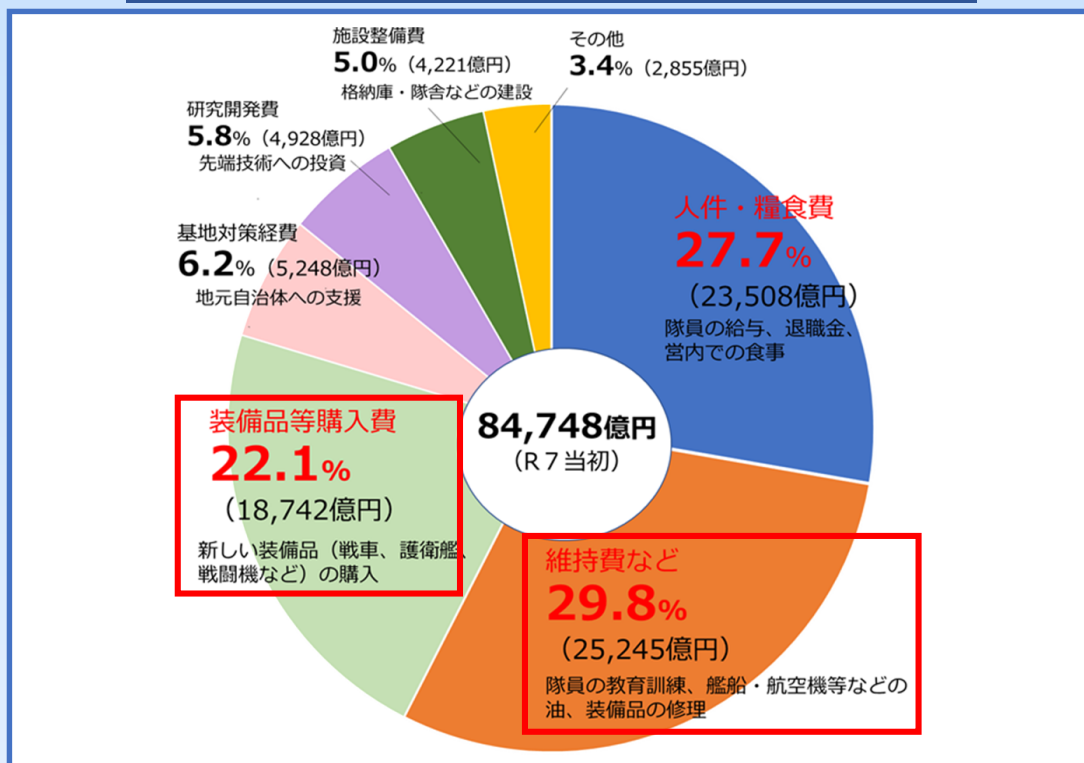
防衛費＝装備品（戦車や戦闘機など）の購入というイメージを持たれやすいですが、令和7年度予算案全体のうち

装備品の購入費は約22%です。

割合が大きいのは、

維持費などで約30%、次いで**人件・糧食費で約28%**です。

令和7年度予算案の使用別分類



隊員の教育訓練などの「維持費など」と隊員の給与などの「人件・糧食費」で全体の約6割を占めています。



防衛省

MINISTRY OF
DEFENSE